

化女沼

(けじょぬま)

位置:北緯38度37分、東経141度57分／標高:25.9m／面積:34ha／湿地のタイプ:ダム湖、淡水湖／保護の制度:国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地:宮城県大崎市／登録:2008年10月

湿地のタイプ: ダム湖、淡水湖



南側から見た夏の化女沼



南東から見た沼の全景



周辺の田んぼで休むヒシクイ



西側からの景観(中央奥にダム管理事務所)

湿地の概要:

宮城県北部に広がる北上平野は、岩手県から南下する北上川、秋田・山形両県の県境から東に流れる迫川や江合川などで形成された低湿地帯で、洪水をくりかえしながら、堆積した肥沃な土壌が豊かな稲作地帯をつくりあげてきた。

江合川支流の田尻川も、川幅が狭く、水はけの悪い低地を流れ下るため、氾濫と洪水をくりかえしてきた川である。

大崎市の北西約5 kmにある化女沼は、田尻川の洪水調整と灌漑用水用の、周囲約4 kmの治水ダム湖である。もともとあった自然の沼をもとに、300年以上前につくられた農業用のため池を造成して、1995年に完成したものだ。

流入する自然河川はなく、雨水と湧水と洪水時の導水を貯水する。南端のダム堤からは、長者川を通して、再び田尻川に放流される。

沼をとりまく好環境:

沼の水深は通常時で4 mと浅く、ハスやマコモ、ヒシなどの水生植物が繁茂し、ミ

ズニラ、デンジソウ、ミクリ、トリゲモなどの希少種も多く、魚類やトンボ類の生息地にもなっている。

一帯はなだらかな丘陵地で、南東側には水田が広がり、ハクチョウ、ガンカモ類の日本有数の越冬地となっている。この地域には、化女沼のほかに沼の東12 kmには蕪栗沼、北東15 kmには伊豆沼・内沼の二つのラムサール条約湿地がある。

沼を特徴づけるヒシクイ:

化女沼は真冬でも完全には凍結しないため、マガンやヒシクイ(亜種ヒシクイ)はじめ多くの水鳥のねぐらになっている。なかでもヒシクイは、毎年2000羽以上(最大6000羽)、国内飛来数のほとんどがここで越冬する。

蕪栗沼のマガン、伊豆沼・内沼のハクチョウとならぶ、バードウォッチャーの人気種だが、ヒシクイの沼の出入りは朝早く、夜が遅い。

ダム堤南東端にダム管理事務所があり、観光資料館が併設され、2階から沼の全景を望むことができる。また北側を走る東北自動車道入り線の長者原サービスエリアか

らも沼を見ることができる。

【ヒシクイ】ヒシクイは4~5亜種に分類され、日本にはカムチャッカ半島で繁殖する亜種ヒシクイ(ヒシクイ)とオオヒシクイの2亜種が飛来する。全長85 cmのヒシクイは黒褐色で縞模様があり、首が短く、嘴の先と足が橙色で、牧草地や水田などで主に草類を食べる。ヒシクイより大きく嘴が長いオオヒシクイはヒシやマコモの種子や根茎を好んで食べる。

●関係自治体

大崎市役所 Tel: 0229-23-2111

<http://www.city.osaki.miyagi.jp/>

